

雄勝稲作情報

No.7 令和3年8月31日



発行 ● 小ま ち 農 業 協 同 組 合
 湯 沢 主 食 集 荷 商 業 組 合
 湯 沢 市 農 業 総 合 指 導 セ ン タ ー
 成 瀬 村 農 業 総 合 指 導 セ ン タ ー
 秋 田 県 農 業 共 済 組 合
 監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
 雄勝地方病害虫防除員協議会

生育状況について（8月20日現在）

定点調査結果（「あきたこまち」8地点平均）

田植：本年5月24日

	穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数	
			粒/穂	粒/㎡
本年	431	13.0	76.4	32,810
平年	443	12.9	72.3	31,842
平年比	97%	+0.1葉	106%	103%
前年	494	13.0	70.4	34,700
前年比	87%	±0.0葉	109%	95%

※雄勝地域振興局調べ

管内の出穂盛期は、生育が早めに推移したことから、平年より3日早い8月1日になりました。

8月20日現在の定点調査ほ（あきたこまち8カ所）では、穂数は431本/㎡（平年比97%）とやや少なく、一穂着粒数は76.4粒（同比106%）と多く、㎡当たり着粒数は32,810粒（同比103%）と平年よりやや多くなっており、全般的にはほ場毎の籾数は平年並～やや多くなっており、籾数が多いほ場もみられます（図参照）。今

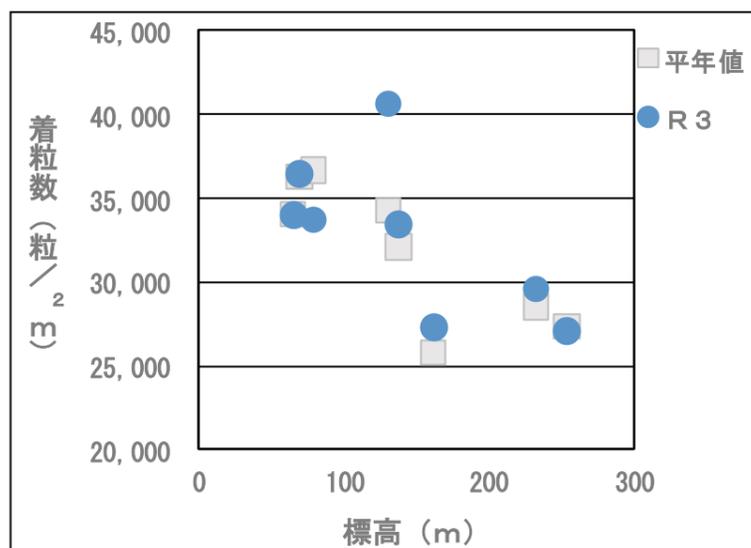


図 定点ほ場(標高別)の着粒数

後は各ほ場を観察し、水管理や畦畔除草、秋作業用機械施設の点検など計画的に作業を実施するように心掛け、高品質米生産に努めましょう。

斑点米カメムシ類防除について

斑点米カメムシ類 注意報が発令されました！

全県的に出穂が早まり、8月前半は気温が高く推移したことから、斑点米カメムシ類の発生は多くなり被害の増加が懸念されます。下記の対策をしっかりと行いましょう。

出穂期24日後頃、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布しましょう。

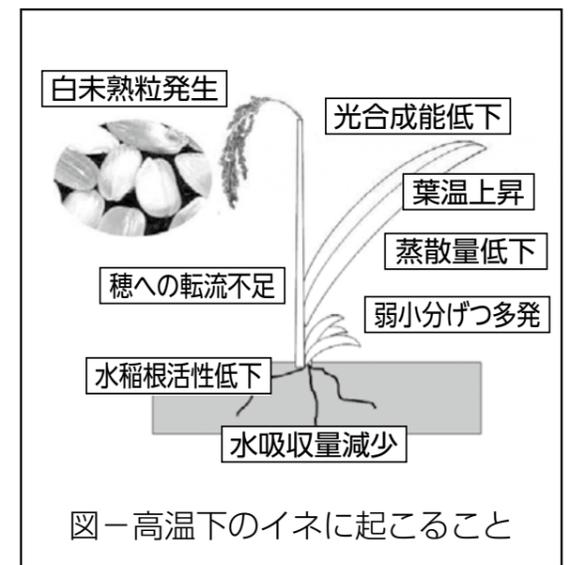
- (1) 茎葉散布剤はキラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（収穫7日前まで）とします。
- (2) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者と連携をとり、ミツバチへの危害防止を徹底しましょう。
- (3) 草刈りは収穫2週間前になってから行いましょう。

登熟の向上を図る水管理

○出穂後30日間は^{かんすい}間断灌水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。

○気温が日中で30℃以上、夜間で25℃以上の場合、用水を確保できる地域では掛け流し灌水を行い、地温を下げ根の機能減退を防止します。また、フェーン現象など乾燥した風が強い日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。

○落水時期は出穂後30日頃を目安とし、イネの登熟度や圃場の作業性を考慮して決めます。ただし、落水が早すぎると登熟が妨げられるので注意します。生育が旺盛な場合は、肥大が遅くまで行われるので、落水が早すぎないように注意してください。



図－高温下のイネに起こること

安全確認と予防対策を十分に行い農作業事故を防ぎましょう！

9月1日(水)～10月31日(日)までは「秋の農作業安全運動」期間です。秋の農繁期は最も農作業にかかる事故が発生しやすい時期です。

「一人一人の安全意識と周囲からの「声かけ」から始まる農作業の事故防止」

周囲の環境を汚さない環境に優しい米作りをしましょう！

秋田県では、**稲わら焼きは原則禁止**されています。特に、周囲への影響が大きい10月1日(金)から11月10日(水)の間全面的に禁止されています。

刈り遅れには注意！

刈り取り適期は、品種や圃場条件等で異なるため、下記を参考に刈り取り適期を総合的に判定してください。特に、**出穂後の積算気温が早生種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を越えると胴割れ米が急増**します。近年、胴割れ米による等級落等が見受けられます。今年度は出穂期が早まっているため、刈り遅れにならないよう注意してください。

○出穂後の積算気温による刈取適期予想（アメダス湯沢）

出穂期	積算気温到達月日				
	950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃	1,150℃
7月25日	9月3日	9月6日	9月8日	9月10日	9月13日
7月28日	9月7日	9月9日	9月11日	9月14日	9月16日
7月31日	9月10日	9月13日	9月15日	9月18日	9月20日
8月3日	9月14日	9月17日	9月19日	9月22日	9月25日
8月6日	9月18日	9月21日	9月24日	9月27日	9月30日
8月9日	9月23日	9月26日	9月28日	10月2日	10月5日
8月12日	9月26日	9月29日	10月2日	10月6日	10月9日
8月15日	9月30日	10月3日	10月6日	10月10日	10月13日

* 8月22日以降の気温データは平年値を使用。

▼刈り取り時期の判定の目安

① 出穂後の日数による判定 早生種（あきたこまち等）で出穂後45日前後 中晩生種（めんこいな・ゆめおぼこ等）で出穂後50日前後
② 出穂後の積算気温による判定 出穂後の日平均気温の積算値 早生種：950～1,050℃ 中晩生種：1,050～1,150℃
③ 籾の黄化程度による判定 葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%以上の頃
④ 枝梗黄化程度による判断 主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃

刈り取り時期決定

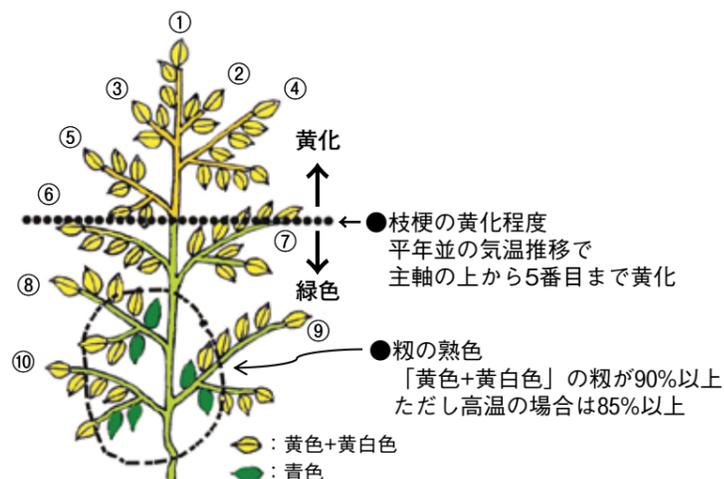


図 籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈取り適期の判断（模式図）

収穫作業と乾燥調製

(1) コンバイン収穫

- ① 損失粒やワラ・穀粒の詰まりが発生しないように、稲の生育量に合わせた作業速度で行いましょう。
- ② 収穫時の籾水分は25%以下が望ましく、収穫作業は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に行いましょう。

(2) 台風等による被害対策

台風は強い風雨を伴うため、倒伏や風水害、進路によっては山脈を越えた乾いた空気が、高温の風となって吹くフェーン現象の原因となります。

特に、倒伏が発生すると受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招くことから、倒伏した場合は次の事項を実施しましょう。

- ① 圃場の停滞水は速やかに排水しましょう。
- ② 早期に倒伏した場合は、速やかに4株ずつ束ねて立て直しましょう。
- ③ 登熟後期の場合は早めに刈り取るとともに、追い刈りや横刈り等により刈り取り精度の向上に努めましょう。
- ④ 穂発芽した場合は、品質低下防止対策で刈り分けを行いましょう。

(3) 高品位米に仕上げるための乾燥・調製

① 乾燥作業の留意点

- ア 乾燥機の特徴、操作手順をよく理解しましょう。
- イ 高水分籾の刈り取りを避け、わら屑の混入を少なくし籾の循環を良くしましょう。
- ウ 乾燥前、中、後のそれぞれの工程で正確な水分測定を行いましょう。
- エ 水分が多い籾や活青米の多い籾などは、籾含水率が18～20%まで低下した時点で乾燥機を休止し、籾全体のテンパリングを行ってから仕上げ乾燥する二段乾燥を実施しましょう。
- オ タイマー設定時間はやや短めとし過乾燥を防止します。自動水分計のものでもやや高めの水分で一時停止し、温度設定する時は籾の状態を考え過乾燥にならないようにしましょう。
- カ 乾燥の仕上がりは、玄米水分15%とします。なお、過乾燥になると胴割粒が発生するとともに食味が低下するので注意しましょう。

② 調製作業（籾摺り・選別）

〔籾摺り〕

- ア 籾摺り作業は、穀温が高いと肌ズレ米が発生しやすいので、穀温が常温まで低下してから行いましょう。
- イ 籾摺り機の処理量は米選機的能力に合わせ、米選機的能力以上に玄米を供給しないように注意しましょう。
- ウ ゴムロールの摩耗程度を点検し、試し摺りを行い脱稃率が80～85%になるよう調節します。全自動の場合もゴムロールの摩耗点検は必ず行いましょう。

〔米選〕

- ア 網目は1.9mmを基本とし、整粒歩合80%以上を確保しましょう。
- イ 規定範囲内の流量で選別しましょう。